

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	特定非営利活動法人イカオ・アコ
活動タイトル	人と自然が共生する里山としてのマングローブ林の再生
活動地域	フィリピン 西ネグロス州 E. B. Magalona 郡 Tomongtong 村



6月27日 集合写真・植林活動終了後
(住民団体のメンバーと当団体スタッフ)

【活動の目的・目標】

これまでのマングローブの植林経験を活かし、住民団体にノウハウを教えることで、本プロジェクト後も住民団体が活動を継続し、持続的に里山再生に取り組めることを目指す。
また、活動地のエコツーリズムの知名度を上げ、人と自然が共生し、マングローブの重要性や環境問題に関する理解を深める。



8月22日 植林活動の様子（全体）

【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

協働している住民団体のメンバー内での意見や考え方の違いなどにより、しばしば衝突があり、それをまとめることに苦労している。
対策として、個人的にメンバーからヒアリングするだけでなく、こまめにミーティングを開催し、事業が円滑に進むように取り組んでいる。



9月8日 植林地の清掃活動の様子

【活動の内容・成果】

開催回数：植林活動（5回）、清掃活動（3回）
参加人数：植林活動（のべ84人）、清掃活動（のべ36人）
達成率：30%

<植林活動>

場所：Tomongtong 村
参加者：現地の住民団体メンバー、および San Enrique 高校の生徒
実施日：6/27, 8/9, 8/22, 9/9, 9/21
植林本数：3,120本

<清掃活動>

場所：Tomongtong 村
参加者：現地の住民団体メンバー、San Enrique 高校の生徒
実施日：7/12, 9/8, 9/26

全体の成果：2023年9月末の時点で、苗の生存率は約50%になっている（台風や悪天候が続いていた中、比較的良い数字と言える）。
また、清掃活動などにより、住民団体メンバーの環境への意識も上がっている。

【団体概要】

1997年から西ネグロス州シライ市でマングローブの植林活動を始めた。現在は、ネグロス島の各地やボホール島にも活動範囲を広げ、安全な水の共有、台風による災害支援、ゴミの減量化などの事業も行っている。
2022年までに累積200万本のマングローブの植林を達成した。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



植林する苗を準備しているところ

補足：苗はポットに入れて育て、ある程度、成長したら植林を行う。

補足：8月22日の作業時の様子



植林前の準備の様子

まずロープを引き、苗を植える場所を決める。

補足：植林をする際、苗の成長等を考慮し、1メートル間隔で植えていく。

補足：8月22日の作業時の様子



清掃活動の様子

マングローブの苗に絡まったプラスチックゴミを取り除いているところ。

補足：海から流れてきたプラスチックゴミは、苗に強く巻き付いているため、ハサミでゴミを切りながら取り除いていかなければならない。

補足：9月8日の作業時の様子



モニタリング時の様子（植林後）

補足：9月末時点の様子